

陸前高田発

「かき小屋広田湾」

観光の復興を「食」の力で後押ししようと、陸前高田市のカキ生産者が同市小友町に昨年12月「かき小屋広田湾」をオープンしました。



「かき小屋」ではオーナーの藤田敦さんが自ら広田湾で育てたカキを提供しています。これまで広田湾産のカキは、主に殻付きカキとして滅菌処理され首都圏へ出荷されていましたが、藤田さんは以前から



「地元でも提供の場を」という思いを抱いていました。こうした中、震災発生直後からの災害ボランティアで、藤田さんと意気投合した京都

出身の梶原康聖さんが「かき小屋」の手伝いを申し出て長年の夢を実現しました。「奇跡の一本松」には今でも多くの観光客が訪れていますが、食事は大船渡市や気仙沼市に移動してとるといいます。このため「かき小屋」には陸前高田を通過していた観光客に足を止めてもらいたいとの考えもあります。

「被災地」というだけでは人を呼びこむことは難しくなっている中、藤田さんはカキだけでなく、広田湾で採れる海産物をもっとアピールしたいと考えています。震災発生からまもなく3年、藤田さんが目指す「食」による魅力づくりは観光の復興に大きな力となりそうです。(1/22 ニュースエコー)



陸前高田発

「奇跡の一本松」はがき



陸前高田市の「奇跡の一本松」をはじめとする県内の観光スポットの写真入りはがきが発売されました。これは県内の郵便局が実施した「私がお勧めする岩

手の観光スポット投票」の結果を元に作られたもので上位10か所がセットになっています。投票では奇跡の一本松が1位に選ばれました。はがきは1万部限定で3月31日まで県内の郵便局で発売されます。(1/23 ニュースエコー)

釜石発

がれき処理・年度内で終了予定



被災地復旧の課題のひとつ、がれきの処理について、釜石市の野田武則市長は年度内の終了に向け全力をあげる考えを示しました。

釜石市の災害廃棄物は今月20日時点で処理率98%までこぎつけました。残り2%の処理は来月中に終わる込みです。県全体の災害廃棄物も既に96.3%まで処理が進んでいて、年度内に完了の見込みです。(1/27 ニュースエコー)

大船渡発

震災時の写真展

あらためて東日本大震災について考えようと記録写真展が大船渡市末崎町の大船渡市立博物館で開かれています。



「寒い夜が明けて、はじめの3日間」という副題で、2011年3月12日から3月14日までの写真50枚が展示されています。会場で特に目を引くのが大船渡町の高台から写した3枚の写真をつないだタテ180センチ、ヨコ480センチの巨大な写真で、震災発生直後の町の様子が見る人に迫ってきます。この写真展は5月11日まで開かれています。(1/28 ニュースエコー)

陸前高田発

さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)

今週は陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、広田町の「工房めぐ海(めぐみ)」



代表の村上豊子さんにお話を伺いました。工房は広田半島営農組合の女性部の方たちが切り盛り

し、主にお菓子と味噌を手作りして販売している所です。震災の津波で全壊しましたが山側に移転し再開しました。ワカメとホタテが入ったお焼きなども作っていて、全国から注文が来ているという事です。(1/29)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122